

魅力ある学校・選ばれる学校へ 栗山高校の存続に向けて



◆令和2年度の募集は2間口維持
平成18年11月、これからの栗山高校の間口確保と南々空知高等学校の拠点化を図り、生徒や保護者が選択し得る高校づくりを推進することを目的に北海道栗山高等学校を支える会（以下「支える会」）が設立されました。

北海道教育委員会（以下「道教委」）が毎年公表している、公立高校再編策を示す「公立高等学校配置計画案」の平成22年度および平成25年度案では、栗山高校の間口減の方針が示されました。この段階で、支える会が発起人となり、町、町議会、商工会議所、そらち南農業協同組合など、本町の各層により構成する「栗山町高校問題協議会」を発足し、道教委への間口維持に向けた活動が精力的に展開されました。

本年6月4日、道教委より令和2年度から令和4年度までの高校配置計画案が示されました。栗山高校は、本年度は1学級編制という結果になったことから、令和2年度の募集学級数は、9月の配置計画決定時に公表するとの方針が出されました。

町内唯一の公立高校である栗山高校は、今年で創立90周年の歴史と伝統ある高校です。

昭和39年に全日制課程で普通科と家政科、定時制課程で普通科と農業科が設置され、1学年最大9クラスを有し、昭和43年には436人の卒業生を送り出す大規模校でした。

近年、進路希望の多様化や中学校卒業生数の減少などの影響により、栗山高校の入学人数は減少傾向にあります。

本年度の入学人数は33人で、学級は2学級から1学級となっているのが現状です。

入学人数の推移（5年間）

年度	入学人数	町内中学校からの進学率
27年度	78人	38.18%
28年度	64人	36.44%
29年度	58人	31.25%
30年度	52人	35.19%
31年度	33人	22.09%

※入学人数は毎年5月1日現在の学校要覧の在籍状況です。

このような状況を受け、8月19日、佐々木学町長を会長とする「栗山町高校問題協議会」から「栗山高校普通科の2間口維持」について、道教委の佐藤嘉大教育長へ要望書が提出されました。佐々木町長からは、特異な年度を基準に生徒募集間口を減ずるのは妥当ではないことや、令和2年度以降の生徒募集の見通し、本町まちづくりの視点からの2間口維持の必要性について説明し、町を挙げて強く要請しました。

佐藤教育長からは「栗山高校の定員状況は道教委としても重く受け止めており、今回の要望事項を十分踏まえつつ、栗山町と連携して栗山高校が魅力ある学校・選ばれる学校となるよう努力したい」という話がありました。

道教委は、9月3日に「公立高等学校配置計画」を公表しました。

【北海道教育委員会への要望の趣旨】

○町内中学生の卒業生数が86人で、前年比22人減の特異な年度であったことや、今後の中学生の卒業見込人数、空知南学区内の学級減や募集停止の状況などから、募集間口を減ずるのは妥当ではない。

○栗山高校は、北海道介護福祉学校との間に連携協定を締結し、栗山高校生徒の職業体験などが実践され地域の福祉教育の推進をより強化しており、今後も本町が目指す福祉のまちづくりに大きく寄与することや、学校運営協議会の設立により、まちと一体となった教育活動が推進されている。募集間口減は、栗山高校が目指す地域に開かれ密着した学校づくりを鈍化させる。

○本町が進める資格取得受験料補助制度をはじめとした支援策や、栗山高校とともに進める学校活性化や存続に向けた各種施策など、栗山高校の志願者確保に向けた地元独自の取組内容を十分に踏まえた高等学校配置を求める。



▼道教委への要請行動
令和元年8月19日

令和2年度の栗山高校の募集間口は2間口維持と決定され、地元の学校づくりの取り組みや高校存続に対する熱意が伝わったと、関係者からは安堵の声が聞かれました。

◆町からの支援策

町では平成27年度より、栗山高校生の教養を高めることを目的に、各種資格取得受験料の1/2を助成する町独自の補助金制度を創設し、これまでの4年間で約250人の生徒に活用されてきました。

また、今年度からはこれまでの資格取得受験料の補助制度に加え、新たに部活動対外派遣費や各種模擬試験受験料の助成、青少年海外派遣事業「少年ジェット希望

の翼」の栗山高校生徒枠の創設など、より魅力ある学校づくりのため、支援策の拡充を進めています。

◆未来像を話し合う町民組織「魅力づくり委員会」の設置

近年、栗山高校の入試志願者が募集定員に満たない状況が続いているため、今後は間口減少や募集停止などが危惧されます。

本町のまちづくりにとって、そして、まちの将来の担い手として欠くことのできない栗山高校の存続は、本町の重要な町政課題の一つに位置付けられています。町では、栗山高校の将来的な在り方や魅力ある学校づくりなどの調査および検討を目的として、2月に関係機関・団体からの推薦、公募、町長選任委員の合わせて20人の委員構成により、栗山高等学校の魅力づくり委員会（以下「委員会」）を設置しました。

昨年度は2回の委員会を開催し、栗山高校の現状や道立高校の出願状況をはじめ、道教育庁高校教育課長から「公立高等学校配置計画」に関する説明を受けるなど情報共有を図り、委員の皆様からはそれぞれの立場や経験から、栗山高校に関する将来の在り方や魅力・特色ある学校づくりについて、建設的なご意見をいただきました。

した。

また、今年7月の委員会では、議論を進めていく上では生徒・保護者のニーズを的確に捉え、分析することが重要であることから、栗山中学校全生徒とその保護者を対象とした「高校進学に関するアンケート調査」を実施し、現在、集計・分析作業を進めています。

今後は、委員の皆様から出された意見とアンケート調査結果をもとに、複数のテーマを設定した上で、より具体的に調査・研究する体制を構築し、議論を深めていくこととしています。

今後議論される内容の検証を進め、委員会より町長への報告が行われる予定です。

北海道栗山高等学校を支える会 早坂会長（栗山商工会議所専務理事）

7月1日の支える会総会において会長に就任しました早坂です。本町では人口の自然減が急速に進んでいる中、本年創立90周年の歴史と伝統を有する栗山高校ですが、万が一存続の危機に直面することとなった場合、本町の経済や社会環境が大きなマイナス影響におよぶものと、商工会議所の立場からも危機感をもっています。

◆魅力ある、選ばれる学校づくり

栗山高校は、町の中核的教育機関であり、町民とともにこの町を支え続けてきた「町内唯一の公立高等学校」です。

若者の多くが町外に出るようになった現在も、栗山高校卒業生が町内の各種企業等に職を求める傾向は強く、まちの産業を担い地域を支える有為な人材を輩出し続けています。

栗山高校はまちの担い手確保や地域課題の解決など、本町のまちづくりにとって極めて重要な役割を担う存在です。今後とも、間口維持の取り組みはもとより、学校の存続に向けて栗山高校との連携を図り、生徒確保の取り組みを進めていきますので、町民皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

【問い合わせ】

町教育委員会 学校経営改善室
☎ 1117

支える会として、生き残りをかけた栗山高校に何ができるのか、どのように支えていくのか。町民皆様方の貴重なご意見・ご協力をいただきながら、行動してまいりたいと考えています。

